
銃剣士

蛍光搭

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

銃剣士

【Nコード】

N1978Y

【作者名】

蛍光塔

【あらすじ】

最終的に主人公が王を殺める話です。

第一話

外からは鳥の鳴き声が聞こえる。
おそらく朝だろう。

コンコン

部屋のノックの音でシンフォニー・
イヴ・アルタルトは目が覚めた。

『隊長ー、起きてますかー？』

廊下からは副隊長のミレイ・マゲ
ネウスの声が聞こえる。

シンフォニーはベッドの上から起き
上がろうとしない。

『・・・入りますよ』

ドアを開け、彼女は入った。

(いつみても殺風景な部屋だなあ・・・
って隊長はベッドから起きないし)

ドアの向こう側にベッドがある。

窓がないからとても暗い。

手に持っていた資料を一旦床に置き
魔法で蠟燭に火をつける。

ぼんやりと部屋が明るくなった。

「隊長！いつまで寝てるんですか！」

彼はゆっくりと目を開けた。

「もう朝ですよ」

上半身をゆっくりと起こす。

（この方はいつもいつも・・・）

「何の用だ」

蒼い目がこちらを見る。

（この目にはいつもなれない・・・）

「先日行われた訓練の結果と陛下
からの伝言を預かってまいりました」

「ちっ・・・なんて言っていた」

「舌打ち聞こえています」

朝起きたら王室に会い、とのことですよ

「朝から？何の用だ・・・」

「給料でもくれるのではないのでしょうか」

「っよし、行くっ」

「切り替え早っ」

「では、報告書はテーブルの上に置いて
おきます」

「ああ」

(まったくこの人は・・・ん?)

寝息が聞こえる。

「隊長！」

ベッドに座ったまま寝ていた。

(あきれたっ。でも)

いざ、ってゆうときは隊をまとめ、戦場で
魔法剣を振るっ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1978y/>

銃剣士

2011年11月3日23時21分発行